

# 烏丸ハイメディックコート

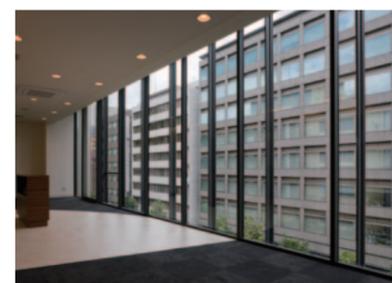
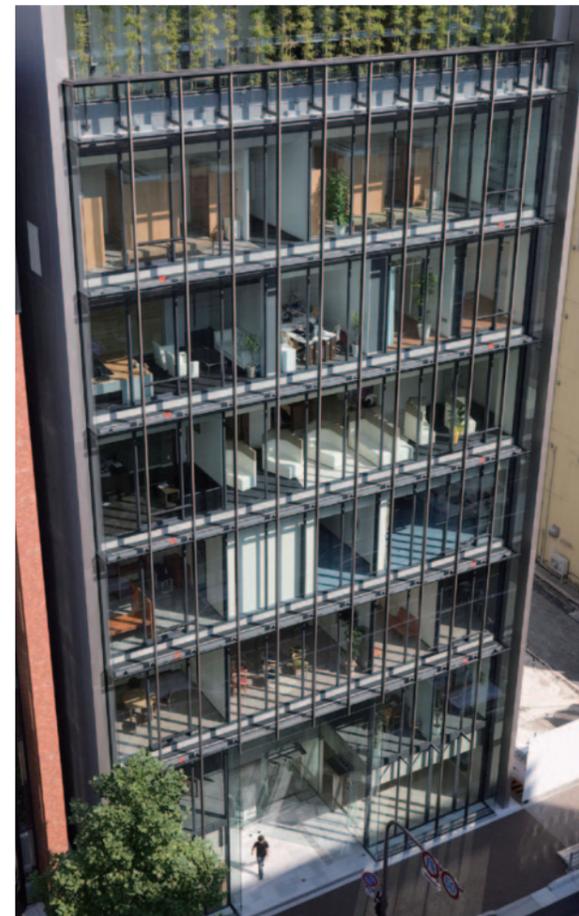
Karasuma High Medic Court

No. 03-018-2011作成

新築  
病院/物販

発注者	親友会ホールディングス 株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 大林組	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

## ダブルスキンカーテンウォールをまとった環境配慮型メディカルビル



上/西面外観  
下/ダブルスキンカーテンウォール内観

烏丸ハイメディックコートは京都の中心地四条烏丸の交差点にほど近くに建つ、医療専門のテナントビルである。

CTなどの画像診断設備を備えた人間ドックや、眼科、メンタルセンター等の最先端技術を有する診療所が入居している。

光あふれる健康的なクリニックを実現する、「繊細さ」・「端正さ」を追求したダブルスキンカーテンウォール

烏丸通りに面する西面のファサードをダブルスキンカーテンウォールとし、自然光溢れる健康的なクリニックの実現と、省エネルギーによる環境負荷の低減を両立している。

また、ファサードは縦長プロポーションのガラスとスレンダーなグラiddingで構成し、伝統的な様式の直截的引用ではなく、現代的な素材で「繊細」・「端正」な寸法感覚や、細部に宿る本質的な「京都らしさ」を表現し、街並・景観へ配慮している。



西面昼景



西面夕景

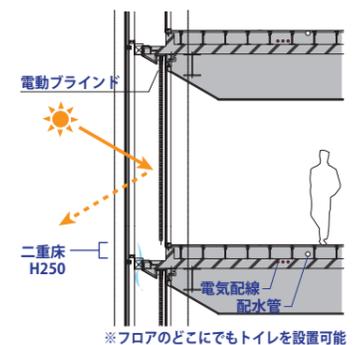
医療専門テナントビルに適した設備の  
フレキシビリティ

各階3箇所の設備バルコニーとフロア全域に渡る250mmの高さの二重床を設け、テナントレイアウトの自由度を向上すると共に、将来の設備更新に配慮している。

共用の排水・給水立管をフロアに分散して配置し、テナント区画のどこにでもトイレや流しなどの水廻りを配置できる計画としている。



標準的な診察室の床下配管施設状況



※フロアのどこにでもトイレを設置可能

断面詳細図

高度規制を活かす屋上庭園

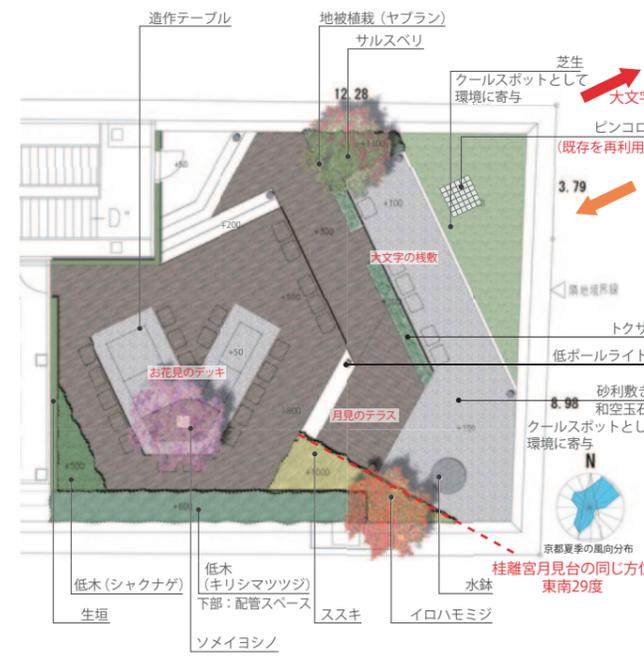
建物の屋上を積極的に緑化し、日射遮蔽・ヒートアイランド抑制を行うと共に、都市景観の向上に寄与している。京都市内では31Mの高度規制により、屋上に立てば京都を囲む東山・嵐山などの山々を望むことができる。憩いの場として設けられた屋上庭園は、五山の送り火の一つ右大文字への方位、桂離宮の月見台と同じ方位東南29度の二つの軸線によってプランを構成している。



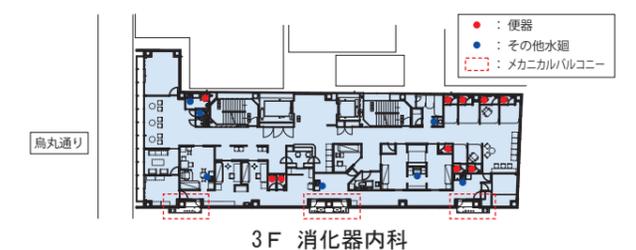
屋上庭園



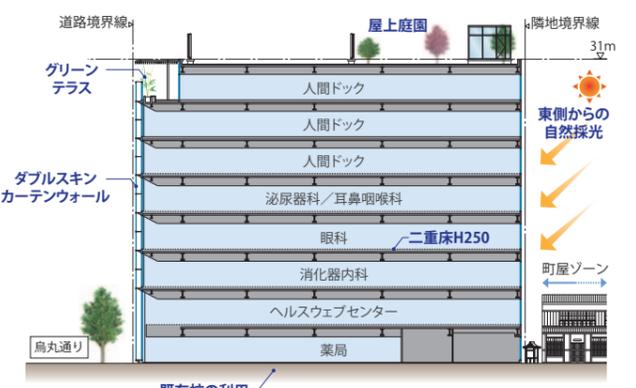
8Fグリーンテラス



屋上平面図



3F 消化器内科



東西断面図

設計担当者

統括：近井務/建築：岡村吉展/構造：金山るみ子/設備：西出英紀、古川和彦、岩城憲治、武藤修朗、津村頼孝/医療施設設計協力：増田徹

主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2. 3. 対応性・更新性(フロア全面にわたる二重床、メカニカルバルコニー)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出(屋上庭園で周辺緑地をつなぐ)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(京都らしさを表現したファサード、建物緑化)
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制(ダブルスキンカーテンウォール、電動ブラインド)
- LR2. 1. 水資源保護(節水型機器)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減(既存杭の利用)

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 17 %	Aランク
竣工年	ERR(CASBEE準拠) 49 %	BEE=1.9
敷地面積	LCCO <sub>2</sub> 削減 42 %	2008年度版自治体提出
延床面積		
構造		
階数		

